

新しいまちづくりのために

政令指定都市を目指した合併の取り組み



新潟市

合併の必要性

1

政令指定都市の実現のために

これまで政令指定都市に指定された都市の人口を調べてみると「人口80万以上を有し、将来的に100万人程度が期待できる都市」が指定されてきたと推測できます。

平成13年8月に政府の合併支援本部が発表した「市町村合併支援プラン」で、平成17年3月までに大規模な合併が実現した場合、政令指定都市指定の人口要件は70万程度に緩和される見通しとなりました。

今後、合併協議への参加を予定している岩室村を含めた13市町村の人口は約78万であり、政令指定都市の実現が具体的なものとなってきました。



2

新潟市の発展の歴史

新潟市は明治22年に市制施行以来、黒埼町も含め、3町12村との合併を重ねてきました。

合併したそれぞれの地域に重要な都市機能が分担・配置され、全体として新潟市の魅力を発揮しています。

例えば「国際色豊かな港湾・空港」、「大学を核とした学園都市」、「機能的な工業団地・卸団地・流通センター」などは、全て別の町村であった地域に整備されたものです。

また、平成8年4月には政令指定都市に準じる「中核市」に移行し、現在に至っています。

そして現在、日本海側初の政令指定都市の実現を目指して、近隣11市町村と合併の協議を進めていますが、このことは、新潟市の長期的発展と市民福祉のさらなる向上に欠くことのできない取り組みです。



3

広域化する住民の日常社会生活圏

道路網や情報伝達手段の発達に伴い、通勤、通学、買い物、医療など私たちの日常生活を営む範囲は居住する市町村の区域を越えて大きな広がりを見せています。

そのため新潟市としても、より広域的な視点に立ったまちづくりを行う必要があります。

近隣市町村から新潟市へ向かう割合

＊通勤率-通学率：平成12年国勢調査 他市町村の15歳以上の就業者-通学者が本市へ通勤-通学する割合

＊購買率：平成14年3月中心市街地に関する県民意識-消費動向調査報告書 他市町村の消費者が本市で買い物する割合（全品目）

通勤率	
市町村名	%
亀田町	42.9
豊栄市	35.8
横越町	35.4
新津市	28.4
西川町	27.3

通学率	
市町村名	%
亀田町	69.9
横越町	58.5
味方村	54.5
西川町	49.9
白根市	47.4

購買率	
市町村名	%
西川町	44.6
横越町	44.4
亀田町	43.7
白根市	37.1
豊栄市	36.7

4

利用と負担のアンバランス

市民病院などの新潟市の施設は、近隣市町村の人も多く利用しているにもかかわらず、負担は新潟市民だけが負っているといった、利用と負担のアンバランスを是正する必要があります。

新潟市民病院の利用状況

	新潟市民	市外の住民
外来患者	63.1%	36.9%
入院患者	55.2%	44.8%

新潟市民病院利用者の約4割が市外の住民
(病院年報 平成12年度 新潟市民病院)



5

財政の合理化

今日、地方財政は極めて厳しい状況にあります。こうした中で社会経済情勢の変化に適切かつ弾力的に対応するため効率的・効果的な行政運営を行うとともに、財政基盤の強化を図らなければなりません。

一般的に、市町村規模が大きくなるほど財政基盤が強化され、また、財政運営は合理化されます。

6

地方分権で高まる市町村の役割

地方分権が進むなか、住民に最も身近な「市町村」が地域に対して果たす役割も、より大きなものになります。このため、新潟市として地域のニーズに見合った行政サービスを自らの判断と責任のもとに、より自立して行わなければなりません。



合併の効果

政令指定都市へ大きく前進します。

現在取り組んでいる合併が実現すると、新潟市の人口は約78万人となり、政令指定都市への移行に向けて大きく前進します。政令指定都市になると、県が行っている多くの事務が市に移され、これまで以上に市民のニーズに的確・迅速に対応した行政を進めることができるようになります。

また、市内にいくつかの行政区が設けられ、それぞれに区役所が設置されますが、そこでは日常生活に密着した多くのサービスが提供されることになり、市民の皆さんの利便性が高まります。

日本海側初の政令指定都市として、全国的・国際的な認知度が高まり、都市のイメージアップも図られることで、人・もの・情報の交流が進み、都市型産業の創出・集積など、都市の活性化や雇用の拡大が期待できます。

政令指定都市としての新潟市は、優れた都市機能と豊かな自然環境が調和・共存する「田園型政令指定都市」を目指すとともに、区役所へできるだけ多くの権限を移譲し、住民自治の一層の充実を図り、市民の皆さんと行政による協働のまちづくりを推進する分権型の政令指定都市を実現したいと考えています。

住民の利便性がより向上します。

住民票や印鑑証明の交付がより広い範囲のサービス窓口で受けられます。また、各地域の保育園、図書館、体育・文化施設などの公共施設が利用できるようになるなど、住民生活の利便性が一層高まります。



各地域にある素晴らしい魅力を結集して、さらに輝きを増します。

合併する市町村がそれぞれ持っている魅力や価値を探し、光をあて付加価値をつける「にいがた地元学」により地域の魅力を結集し、市内外に広く情報発信することによって、新潟をより魅力的で個性的なまちに育て、交流人口の増加を図ります。



広域的なまちづくりができます。

住民の日常社会生活圏と行政区画の一体化により、広域的な道路整備や公共施設の適正配置が図られるとともに、産業振興、環境問題、医療・福祉サービスなど広域的調整が必要な施策の展開が容易になります。



行財政の効率化が図られます。

総務、企画などの管理部門を組織統合することで、組織・人員の合理化が図られ、住民に密着したサービスを提供する部門（保健・福祉など）に重点的に職員配置をすることができます。

また、特別職、議員、審議会の委員などが減少することで、人件費の削減が図られます。



合併 Q & A

Q1 合併すると財政状況はどうなりますか？

A1

合併すると組織の統合、行政システムの効率化、人件費の削減などにより経費の節減が可能となりますが、一方で行政制度の統一やまちづくりなどに経費が必要となるため合併後の10年間の財政計画を策定して、健全な財政運営を行っています。



Q2 合併すると議会議員はどうなりますか？

A2

編入をする新潟市の市議会議員(52人)の身分に影響はありませんが、編入される市町村の議員はその身分を失います。

ただし、合併特例法の定数特例が適用されるため、編入された市町村の区域ごとに選挙区を設け増員選挙を実施し、新たに議員を選出することになります。

増員選挙における各市町村の議員定数

新津市	白根市	豊栄市	小須戸町	横越町	亀田町
6人	4人	5人	1人	1人	3人
西川町	味方村	湯東村	月潟村	中之口村	岩室村
1人	1人	1人	1人	1人	1人

●任期は新潟市議会議員の残任期と同じになります。



Q3 協議会の会議内容などはどのように周知するのですか？

A3

協議会の会議録や資料はインターネットのホームページなどでごらんいただけます。また、「協議会だより」や「市報にいがた特集号」などで協議内容をお知らせします。さらに、合併や政令指定都市に関する説明会も開催する予定です。

※新潟地域合併問題協議会ホームページアドレス

<http://www.niigatachiiki-gappei.jp/>



Q4 市町村合併に期限はあるのですか？

A4

期限は特にありません。地方自治法の手続きを踏めば、いつでもできます。ただし、財政上の優遇措置などがある現在の合併特例法(市町村の合併の特例に関する法律)の有効期限は、平成17年3月31日までとなっています。期限までに合併することによって政令指定都市指定の人口要件の緩和や、国や県から多くの支援を受けることができます。



合併の話し合いを進めている市町村の魅力を紹介し

	人口	面積
新潟市	527,324人	231.94km ²
新津市	65,860人	78.28km ²
白根市	40,012人	77.06km ²
豊栄市	48,997人	76.85km ²
小須戸町	10,454人	16.91km ²
横越町	10,795人	23.62km ²
亀田町	32,061人	16.82km ²
西川町	12,365人	24.76km ²
味方村	4,805人	14.44km ²
湯東村	6,454人	23.96km ²
月潟村	3,831人	9.04km ²
中之口村	6,483人	20.16km ²
計	769,441人	613.84km ²

岩室村	10,042人	36.11km ²
合計	779,483人	649.95km ²

※国勢人口:平成12年国勢調査確定値人口
面積:平成15年2月7日現在



西川町

自然環境に恵まれ、農業を主体としていますが、近年は新潟市のベッドタウンとして、住宅団地の広がりを見せているほか、高齢者施設などの公共施設の充実により、住んでよくなったまちづくりを進めています。

江戸時代には曾根代官所が置かれた経緯もあり、夏まつりの最後をかざる「西川まつり」では「越後傘ぼこ行列」がまつりのメインとなっています。

湯東村

農業が基幹産業ですが、高速交通網の発達により、近年、工場進出、住宅団地の造成など、宅地化も進んでいます。夏には「どろんこカップ」、初冬には「かもんカマねぎまつり」が開催されます。

岩室村

岩室、田ノ浦温泉を有する湯のまちです。特に岩室温泉は江戸時代より北国街道の温泉地として栄えてきました。産業は、農業を中心として発展してきており、近年は住宅団地の造成等により、宅地化も進んでいます。

岩室村は、今後、新潟地域合併問題協議会への参加を予定しています。

西川町

湯東村

味方村

白根市

月潟村

中之口村

月潟村

全国的に有名な角兵衛獅子発祥の地で、米や果樹などの農業を中心に発展してきました。

近年の高速交通体系の整備により、工業分野の一層の進展が見られます。

初夏には「月潟まつり」が開催され、角兵衛獅子の妙技を見ることができます。

中之口村

稲作と果樹栽培中心の農業と工業の調和を図るとともに、スポーツ・文化施設などの公共施設の整備や高齢者施設の拡充が図られています。

「中之口村先人館」では、第36代横綱羽黒山など地元出身の先人たちの称える資料を展示しています。

味方村

白根市

紹介します。



新潟市

豊栄市

亀田町

横越町

豊栄市

新潟市の近郊住宅地としての役割を担う一方で、国際港湾新潟東港背後地の物流団地や工業団地の造成に伴い県内外の企業が進出しています。

市の東南に位置する「福島潟」は四季折々の素晴らしい風景を残す自然の宝庫です。

白根市

新潟市

亀田町

新潟市に隣接し、商・工・農業のバランスの取れた町として発展しており、交通網の整備により、商業機能の充実が図られ、また、近年スポーツ施設や障害者、高齢者施設などの公共施設の充実により、人にやさしいまちづくりが進められています。

小須戸町

横越町

恵まれた交通網を活かし、農、工、商のバランスのとれたまちづくりを進めています。稲作・野菜・果樹・花き栽培が盛んで、特にチューリップ栽培は有名です。

阿賀野川河畔には、豪農の館「北方文化博物館」があり、越後千町歩地主「伊藤家」の当時の面影を今に伝えます。

味方村

越後平野の穀倉地帯の中央に位置し、稲作を中心に栄えてきました。

国の重要文化財に指定されている「笹川邸」は往時の大庄屋の面影を今に残しています。

毎年6月には300有余年の伝統を誇る白根大風合戦が開催されます。

新潟市

石油と鉄道と花のまちとして有名で、自然と一体になった美しい景観、数々の文化財が存在するまちです。

現在、産・学・官と地域が一体となった「バイオリサーチパーク構想」の取り組みが進められています。

夏には「にいつ夏まつり」が開催され、四百年の伝統を誇る「新津松坂流し」がまつりを盛り上げます。

白根市

稲作を中心に野菜・花き・果樹栽培が有名で、県下でも有数の農業生産地です。

新潟市と隣接した地域には、住宅団地や工業団地が造成され、さらなる都市整備が進められています。

毎年6月には300有余年の伝統を誇る白根大風合戦が開催されます。

小須戸町

「まごころと花とみどりのまち小須戸」をキャッチフレーズに、花き・花木などの園芸が盛んで、特に「ボケ」は日本一の産地として広く知られています。

また、温泉センター「花の湯館」は多くの町内外の人が訪れ、町の観光事業や町民の健康増進の一翼を担っています。

合併の手続きについて

合併するためには、様々な手続きを踏まなければなりません。



※新潟市を含む12市町村では、現在、任意の合併協議会で
ある新潟地域合併問題協議会を設置しています。
今後、この協議会で行政制度やまちづくりのあり方などを
協議し、一定の方向を示したうえで、各市町村の議会議決を
経て、法定合併協議会に移行します。

新しい都市づくりのために (平成15年3月)

編集・発行 新潟市企画財政局企画部広域行政課

(平成15年4月から新潟市企画財政局
広域合併推進部広域合併推進課へ変更)

〒951-8550 新潟市学校町通1番町602番地1

TEL 025-228-1000 FAX 025-223-1557

E-mail koiki@city.niigata.niigata.jp

新潟地域合併問題協議会のホームページをご覧ください。
<http://www.niigatachiiki-gappei.jp/>

2005年3月末日までの
合併を目指します